第9回拠点リーダー養成講座
今年も大きな成果を得て終了

今年も拠点リーダー養成講座が11月26日から2泊3日で「ユニトピアささやま」で開催され、全国30の拠点から31名（男性20名、女性11名）の精鋭が集まり、熱心に研修が行われた。

とくに今年の研修は、来年にナルク設立20周年を控え、事業計画にも示されている「ナルクの原点を学び行動に」がテーマとなった。

1日目は高畑会長の「ナルク総論」で、ナルク設立の意義・基本理念とリーダーとしての心構えについて3時間余り熱い思いが語られた。

2日目は盛りたくさんの内容で、午前は寺井常務理事が「ナルクの定款」についてその内容と意義を説明、次に神野組織担当が「拠点設立と運営」「時間預託・奉仕活動・ボランティア活動」「コーディネーター」などの各マニュアルについて説明した。

午後は狩野事務局長が「会計、会員管理業務」に関し、ネット会計、時間預託管理、会員管理のシステムについて説明、また「ナルクの諸活動」について、神野組織担当から子育て支援、成年後見人、寺井常務理事から収益事業、地域包括ケアシステムなどの説明があった。

その後4つのグループに分かれてグループ討議が行われ、「ナルク会員の拡大」「提供会員を増やすには」「ナルク活動のこれから」などをテーマに各拠点が抱えている課題、現況等をふまえ、活発な議論が交わされた。

最終日は各グループからの討議内容のまとめの発表と、それに対する他グループや講師からの質問、意見・コメントなど、真剣かつ熱のこもった意見交換が行われた。また、受講者から事前に提出されていた本部への質問や要望等に対してのの回答がなされた。

研修会場「ユニトピアささやま」

1日目、2日目の講義終了後に行われた夕食会および交流会は夜の深けるのも忘れて盛り上がり、拠点間、参加者相互のより一層の交流が図られた。

今回の養成講座は、受講者全員が意欲的で熱心に取り組み、大きな成果を上げることができた。高畑会長は「皆様の拠点における今後の活躍を大いに期待しています」、と語っている。

北海道にリーダー研の同窓会が誕生

3年前、リーダー研に参加した北海道のメンバー5人が、「このままで終わるのは淋しい」と、来年の再会を約束しました。

そして翌年の6月23日、高畑会長をお招きして、第1回の同窓会を帯広で開催しました。会の名前も正式に「どさんこ会」と決まり、毎年集まろうと言うことで、現在に至っております。

昨年は釧路が幹事で、「ニュー阿寒ホテル」、そして今年は函館の幹事で「湯の川温泉」で、それぞれ盛大に開かれました。来年は札幌が幹事なので今から楽しみです。

5人のメンバーだけでなく、札幌の八百坂代表も加入してくださり、裾野が広がりつつあります。いつまでも、この同窓会が継続できますよう、一層絆を深めて参ります。

（帯広・小笠原栄吉）

中山道碓氷峠越え再挑戦の記
20周年に慰霊碑参拝ウォークを計画

15周年の記念行事、「中山道エコふれあいウォーク」は沿道各拠点の多大なご支援を得て、大成功のうちに終わることができた。

ただ、中山道最大の難所とされている「碓氷峠越え」だけは、多人数では安全が保証できないと言われ、バスで通過したため、完歩者の間で「機会があれば碓氷峠にチャレンジしたい」との声が上がっていた。

今年になって、現在中山道のガイドをしている米山さんの提案で、完歩隊の有志で「碓氷峠の旧道」に再挑戦することになった。参加者は高畑会長と阿部、今泉、塩澤、野村、古川、米山の7名の皆さん。

10月21日夕方に、碓氷峠の始点、JR信越線横川駅近くの東京屋旅館に宿泊、夕食を囲んで歓談。

その時、高畑会長から来年の20周年記念行事について、次の提案があり、参加者全員が賛成した。

「総会の前日に東日本大震災の被害者の慰霊碑参拝を目的にしたウォークを実施したい。そのため、阿部さんを中心として関東地区の拠点の完歩隊の皆さん（ウオーク専門家の米山さん含む）で企画し、行動のリーダー役を担ってもらいたい」

碓氷峠に再挑戦した一行

碓氷峠再挑戦

当日の天候は予報と違って、しとしと雨。雨もまたよしと雨具に身を固めて元気に出発。

「碓氷の関所」を横に見て、宿場町を通り過ぎる。林道に入ると、いよいよ碓氷峠道の登り始め。「碓氷小屋」で休憩の後、登山開始。

道は予想以上に急で狭かったが、みんな元気いっぱいに、どんどん登ると柱状節理の岩場がある急斜面、樹木の切れ目からの景色が素晴らしいと言われている「覗き」、熊も水を飲みに来るので要注意の「弘法の井戸」などを通って、急な斜面は一段落。秀吉軍の小田原攻めを防戦しようとして作った「堀切（ほりぎり）」、休憩に使った茶屋跡、人馬施工所跡、女性が化粧した化粧水跡などが、昔の戦や人々の行き交いの賑わいを感じさせる。

約6時間、12kmの最後に長い急な登りが続いたが、ようやく頂上の熊野皇大神宮に到着、無事を感謝して参拝した。峠の茶屋で名物の団子と蕎麦で一休みして、バスに乗ろうとしたが雨で運行してないとのこと。最後の力を振り絞って約5キロを歩き、軽井沢市内から新幹線軽井沢駅に到着。

「雨もまたよし」の大満足の碓氷峠越えであった。

（枚方・野村文夫）

カナダ研修旅行記
いい人　いい旅
会長・高畑敬一

今年の海外研修は前号既報の通り、錦秋のカナダを訪ね、10月17日、34名の視察団は全員無事帰国した。まだ印象の覚めないうちに、有志の皆さんに、その感想を記してもらった。

カナデアンロッキーに行くのなら絶対紅葉の美しい頃が良い、というので、10月9日から17日というスケジュールを組んだが、最も心配したのが天気だった。それが全行程快晴に恵まれ、現地ガイドさんが驚くほどの行楽日和が続いた。

レイクルイーズをはじめ、氷河の融氷で出来た各湖に、雪を冠った山々が映り、神秘的な光景を眼にでき、一生の思い出になった。

出発前の台風26号、帰国に合わせたかのように発生した27号の影響が心配されたが、いずれも進路を避けてくれ、事なきを得た。日頃ナルクを通じて人様を助け、社会に貢献している参加会員の「行いの良さ」を神様が認めてくれたのだろう。

ナイアガラの滝水を浴びて、風邪を引かないかと心配したが、雪上車でビクトリア高原の大氷河を見に行ったときも、下車して氷を取りに行くなど、しばらく遊んだが、思ったより寒くはなかった。

添乗員のお嬢さんも親切で、良く気のつく人だった。

ビクトリアのブッチャード公園の日本式庭園と、バンクーバーの新渡戸稲造を顕彰する日本式庭園は、日本では見られないほどの「わび」「さび」の利いた名園で、感動した。

今回は男性7名、女性27名と、男性が少な目だったが、氷河からとってきた氷で焼酎を飲むなど、毎晩のように筑摩さん（東京拠点）の部屋に集まったのが懐かしい。

また市川5名、堺5名、東神戸4名など参加者の多かった拠点が固まりすぎないかと心配したが、他拠点の参加者と積極的に交流し、従来に例を見ないほど一体感が出来上がっていた。バンクーバーの日系センターで入居高齢者を慰問したとき、上手に日本の

（次頁に続く）

ちょっと聞いて
コーディネーターのつぶやき

お陰様で、我が「いわふねクラブ」は設立以来、会員数は増え続けています。本当は「おめでたい！」と言いたいところですが、これからの5年は、それぞれが高齢化していきますので、活発な活動が維持できなくなることも予想されます。

最近家事支援の依頼を受ける度に、ドッキリする回数が増えてきました。依頼があっても活動者不足からお断りするケースが増えているのです。利用会員の割合に対して活動会員が少ないということや、「家事支援は面倒」という方が、少なからずおられるのが現状です。

ボランティアをしたいと思って入会されても、同好会、イベントにはしっかり参加しても、ボランティア活動となるとちょっと・・・という方が多いのではないかと思います。

「ナルクに入って良かったなぁ」というでもなかった?」。

その答えを出す前に、まずはボランティア活動に参加して欲しいのです。そのスタートラインに立たずして、回答を出して欲しくないのです。5年先もその先も、これからのナルクを担うのはコーディネーターではなく、一人一人の会員だと思います。

せっかくナルクに入ったのですから、ボランティアの充実感を味わってみてください。そして「今日行く（教育）」「今日用がある（教養）」で、心身共にご自身の健康を維持していただきたいと願っております。

（交野拠点・青木茂代）